



校長室の窓

くち みみ め てあし こころ ひと つか

口、耳、目、手足、心を人のために使おう

4月8日に福栄小学校の開校式があり、その後の小中合同の入学式では小学校の新1年生が12名、中学校の新1年生が9名入学しました。そして、小学生が計55名、中学生が計31名、合計86名の福栄地域の小中学生が1つの学校で共に生活し、共に活動する「福栄小・中学校」がスタートしました。



さて、皆さんは全員が口、耳、目、手足、心をもっています。それらを自分のために使うのはもちろんのことですが、ぜひ、自分のまわりの多くの人たちのために使うことを心がけてほしいと思っています。

○「口」は、「大丈夫!」「頑張ろう!」などの人を励ます言葉や、「ありがとうございます」「お陰様です」という感謝の言葉を言うために使いましょう。人の心を傷つける言葉や人が嫌な思いをする言葉を言うために使うのは、とても悲しいことです。

○「耳」は、人の言葉を最後まで聴いてあげるために使いましょう。そして、相手がどんな気持ちなのか、そして、相手が何を望んでいるのかということを考えることができる人になってほしいと思います。

○「目」は、人のよいところを見るために使いましょう。自分のまわりには、自分の成長に必ず役に立つ人の姿や行動がたくさんあります。「人のよいところを自分の中に取り入れよう」という目で見えていかないと、「見えているのに見えない」ことがたくさんあるものです。

○「手足」は、人を助けるために使いましょう。どのように使えば人の役に立つかを考えてください。人の体を傷つけたり、痛めつけたりすることに手足を使っては絶対にいけません。それを「暴力」というのです。

○「心」は、人の痛みがわかるように使いましょう。相手の立場に立って、行動することを心がけることで、自分の心がさらに磨かれていきます。

「ひたむきな児童生徒・ぬくもりのある児童生徒・さわやかな児童生徒」は、福栄小・中学校がめざしている児童生徒の姿です。口、耳、目、手足、心を上のようにつかえば、必ずまわりの人を幸せな気持ちにし、自分自身も幸せな気持ちになる「ぬくもりのある児童生徒」になるはずですが、そんな児童生徒の皆さんが集まる「山口県一ぬくもりのある福栄小・中学校」になることを願っています。